

古写真トークイベントを
開催!

南城市では、2014年から市内各地域で「古写真トークイベント」を開催。地域住民から提供された写真をスクリーンに映し、参加者に当時の思い出を語り合ってもらい、貴重な情報を記録している。



どんな資料が公開されているの?

- 写真** 伝統行事や祭り、明治時代以降に撮影された風景や住民の集合写真など
- 映像** ウタキ グスク跡や御嶽などの文化財、沖縄戦の証言集、伝統芸能の記録映像など
- 文書** 明治時代以降の古地図、古文書、旧知念村や佐敷町、大里村、玉城村の市町村史など

CASE 1
 なんじょう デジタルアーカイブ
 [アーカイブ] <https://nanjo-archive.jp/>

写真や映像、文書など
誰でも気軽に利用可能

南城市では2021年から「なんじょうデジタルアーカイブ」を開設。市内の各区でイベントを開催し、市民から寄せられたものを中心に約1万3千点の資料を公開・共有しています(2024年1月時点)。資料は自由に利用できることが特徴。取り組みが評価され、2022年度「デジタルアーカイブ・ジャパンアワード」を受賞しました。



古写真トークイベントの様子。集まった住民の証言や写真を元に、デジタルアーカイブを公開している。(写真提供:南城市教育委員会)

南城市を知る!
 貴重な資料をデジタル化
 約1万3千点を公開!
 (2024年1月時点)

進め!
 うちなー調査隊
 県内の気になるコト・モノを知れば
 沖縄がもっと面白くなる!

地域の伝統や文化を残すため、
私たちにできることってなんだろう?

独自の文化が息づく沖縄には、各地にさまざまな祭りや行事が残っています。それら伝統文化は、住民同士を強く結びつけるだけでなく、地域のアイデンティティを形成し、郷土への思いを意識させるものです。

行事を復活させることで
地域活性化のきっかけに

沖縄には、特色ある伝統行事や祭祀、文化が地域ごとに受け継がれていますが、南城市久高島の「イザイホー」や宮古島市狩俣の「祖神祭(ウヤーン)」のように、後継者不足のため、現在は執行われていない祭祀もあります。過疎化が進み、担い手が不足する中で、先人た



22年ぶりに行われた金武町金武区の「テービー」。火のついたたいまつを激しく叩き合った。

デジタル技術を使い
後世へとつなげる

地域の伝統文化を、デジタル技

術を守り伝えてきたものを次世代にどう残すかは、重要な課題です。途絶えてしまった行事を復活させようという動きもあります。例えば、2023年、金武町金武区では、2001年以降実施されていない「金武・並里大綱引き」復活への機運を高めようと22年ぶりに、9月の観月祭で綱引きの前に士気を高める儀式「テービー」「ガーエー」を演じ、「トゥール」も披露。住民らで半年かけて準備をしたそう。金武区の伊勢達博区長は「途絶えてしまった伝統行事を復活させ、地域を活性化させることは金武区民の願いだった。綱引き開催への第一歩になれば」と期待しています。

術を用いて未来に残す取り組みも始まっています。その一つが「デジタルアーカイブ」。自治体や図書館、民間企業などが所有する資料をデジタル化し、インターネット上で公開・共有することです。県内でも、県公文書館や市町村などにおいて、「デジタルアーカイブ」を開する動きが徐々に広がっています。古い写真や映像だけでなく、住民が語った口述記録もデジタル化して、過去の風景や今では見られなくなった貴重な行事を知ることが出来ます。

伝統行事や文化が失われてしまうと、その地域の魅力が減り、住民の関心も薄れ、地域離れが加速してしまう恐れがあります。郷土意識や、地域のアイデンティティを育み、よりよい社会を築くために、地域の伝統文化を守り、受け継ぐ取り組みが必要です。



県内各地に広がる継承に向けた取り組み

CASE 3
 名護博物館
 [博物館] <https://www.city.nago.okinawa.jp/museum/>



今年で開館40周年!
屋外展示エリアを新設

名護やんばるの暮らしと自然を伝える博物館

旧名護市役所庁舎から、沖縄県森林資源研究センター跡地に移転し、2023年5月にリニューアルオープンした名護博物館。本島北部地域では最大級の博物館で、「名護やんばるの暮らしと自然」をテーマに展示活動を行っている。リニューアルに伴って屋外展示エリアを新たに設け、古民家を再現。今後は、やんばる地域に自生する植物の展示や、畑や田んぼの整備が計画されている。開館40周年を記念し、3月には40年を振り返る企画展を予定している。

CASE 2
 八重山農林高等学校郷土芸能部
 [学校] <http://www.yaeyama-ah.open.ed.jp/>



八重山勢21年ぶりの
全国高文祭最優秀賞!

八重山民謡や舞踊を組み合わせた創作演舞

市内の高校全てに郷土芸能部がある石垣市。中でも、創部50年余りの歴史を持つ八重山農林高校は、2023年夏に行われた全国高校総合文化祭で最優秀賞を受賞した。披露した演目「米ぬめし(まいぬなし)」は、八重山の伝統的な踊りや民謡を組み合わせた創作演舞で、米の田植えから脱穀、精米までの一連の流れを表現し、高い評価を受けた。「卒業後も伝統行事や舞踊に関わり、未来に残していけるような人材になりたい」と部長の宮城琉詩さん。人材育成にも貢献している。

うちなー調査隊
まとめ

地域の伝統を守り伝えることが、
人々をつなぐ架け橋になる!



- アイデンティティや郷土意識の構築など地域の伝統行事や文化が果たす役割は大きい。
- デジタル技術の活用や高校の部活動など、後世へとつなぐさまざまな取り組みが行われている。



節水にご協力
ください

すぐできる
節水対策は
こちら➡



節水にご協力
ください

すぐできる
節水対策は
こちら➡